

明海大学不動産学部

不動産の不思議

第117回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

私は千葉県市原市村上という地域に住んでいる。大学に通う通学路である住宅が目止まった(写真)。最近新築された平屋の戸建て住宅だ。以前この土地は資材置き場として使用され、加工作業等のためと思われる建物もあった。その建物が取り壊され、住宅が新築された。

プライバシーが筒抜けの住居

築なのに乱雑な印象を与え、地域の景観を損なっている。具体的には、第一にプライバシーの問題だ。庭に放置された物を燃やすドラム缶や木材の残骸などが外から丸見えだ。整然としていればよいが、周囲に不安を与える。日照や採光のために大きい窓が設けられているが、屋内も見え、土地と建物の両方でプライバシーが筒抜けである。第二にセキュリティの問題だ。敷

地と外部を仕切るのは鉄柵と鉄製の門のみで、防犯性が低い。門は開閉が大変なのか、見る限りでは常時開いている。容易に開閉できる出入り口が良さそうだ。この地域は若者が都心に移住してしまい、高齢化と過疎化が顕著だ。人通りや外灯が少なく、道は田畑を縫うように入り組んでいて、人目で防犯性を確保できず、セキュリティは各住宅で確保しな



植栽や外構が未整備のように見られてしまう平屋建ての新築住宅

ボランティア募って整備を

私が気になった点は、新築住宅を建築したことではなく、その景観である。住宅には植栽がなく、また、塀などの外構が貧弱で、土地と建物の関係がちぐはぐだ。その結果、新

築なのに乱雑な印象を与え、地域の景観を損なっている。具体的には、第一にプライバシーの問題だ。庭に放置された物を燃やすドラム缶や木材の残骸などが外から丸見えだ。整然としていればよいが、周囲に不安を与える。日照や採光のために大きい窓が設けられているが、屋内も見え、土地と建物の両方でプライバシーが筒抜けである。第二にセキュリティの問題だ。敷

地と外部を仕切るのは鉄柵と鉄製の門のみで、防犯性が低い。門は開閉が大変なのか、見る限りでは常時開いている。容易に開閉できる出入り口が良さそうだ。この地域は若者が都心に移住してしまい、高齢化と過疎化が顕著だ。人通りや外灯が少なく、道は田畑を縫うように入り組んでいて、人目で防犯性を確保できず、セキュリティは各住宅で確保しな

地と外部を仕切るのは鉄柵と鉄製の門のみで、防犯性が低い。門は開閉が大変なのか、見る限りでは常時開いている。容易に開閉できる出入り口が良さそうだ。この地域は若者が都心に移住してしまい、高齢化と過疎化が顕著だ。人通りや外灯が少なく、道は田畑を縫うように入り組んでいて、人目で防犯性を確保できず、セキュリティは各住宅で確保しな

【教員のコメント】

かつて地方では住宅の「建て前」を地域の人が出して手伝い、かつ、祝福した。今でいうボランティアだ。子供もそれを通じて建物の構造や造り方を知った。今日風に「外構植栽づくり」をボランティアで行い、住環境を整備する提案は興味深い。

井部 周斗
不動産学部3年

